

歴史ライブ

方
威
三
三

福武書店

編集・ディレクション——植田博文・黒坂勉・宇野恵信・武隈恵里左・河田美智子

装丁・アートディレクション——浅葉克己

カバー撮影——坂田栄一郎

カバーモデルメイク——木下ユミ

カバーモデルカツラ——水口誠也

カバーモデル衣裳——森良夫

レイアウト——山本昌美(浅葉デザイン室)・吉川俊夫・秋秀人

本文写真撮影——竹内敏信

本文さし絵——加藤孝雄

取材協力——佐藤君子・土方康・新人物往来社

歴史ライヴ 土方歳三

昭和59年1月10日 初版発行

定価 1,400円
監修者 尾崎秀樹・福田紀一・光瀬 龍
発行者 福武哲彦
編集責任者 雨宮良夫
発行所 株式会社 福武書店

東京都千代田区九段南2-3-28 〒102
電話 03(230)2131
振替口座 東京9-37119番

印刷・製本 大日本印刷株式会社

© Fukutake Publishing Co., Ltd. 1984
シリーズコード ISBN4-8288-0300-9 C0321
品名コード ISBN4-8288-0306-8 C0321
落丁・乱丁本はお取替え致しますので、当社までお送りください。

歴史ライヴ

土方歳三

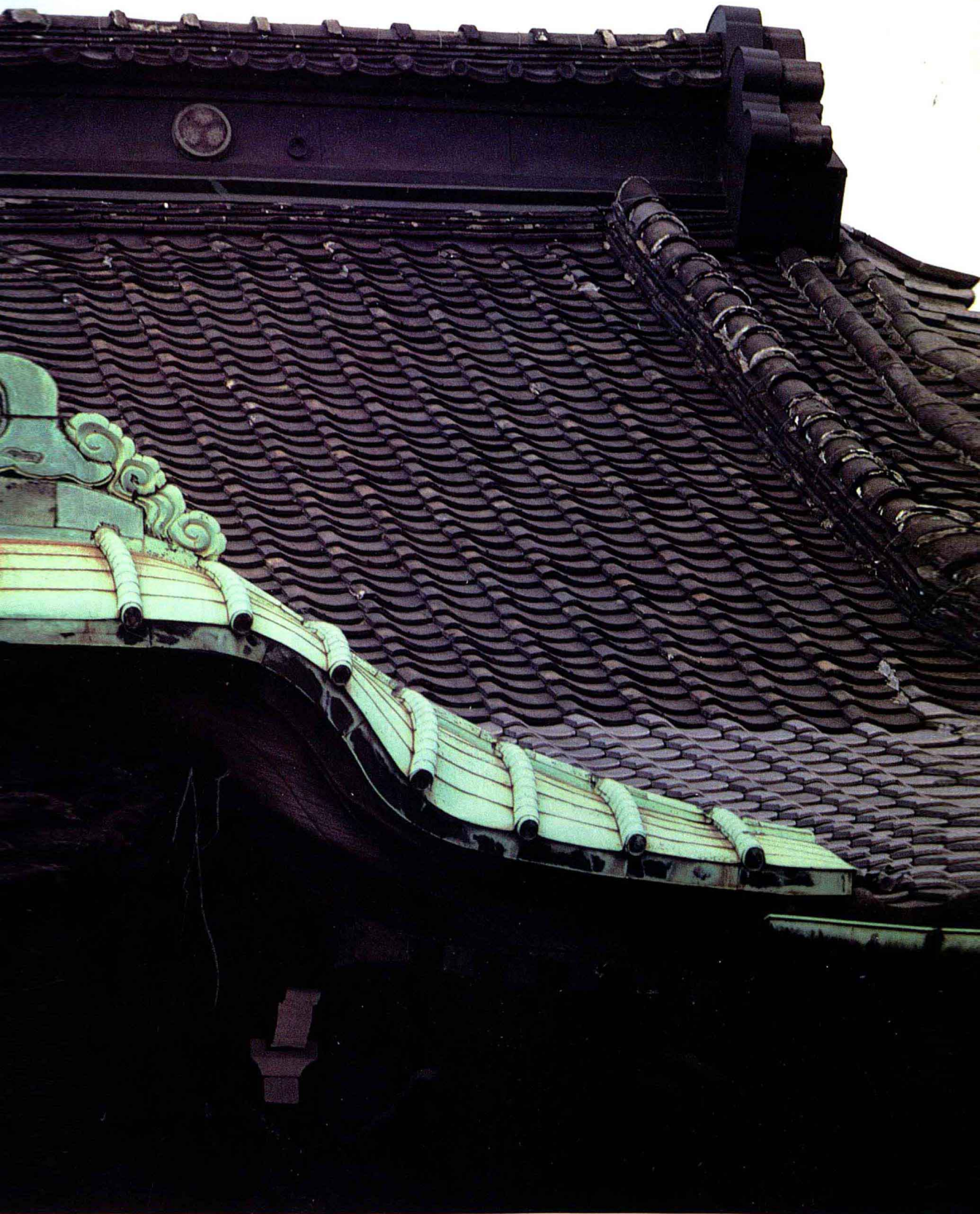
福武書店

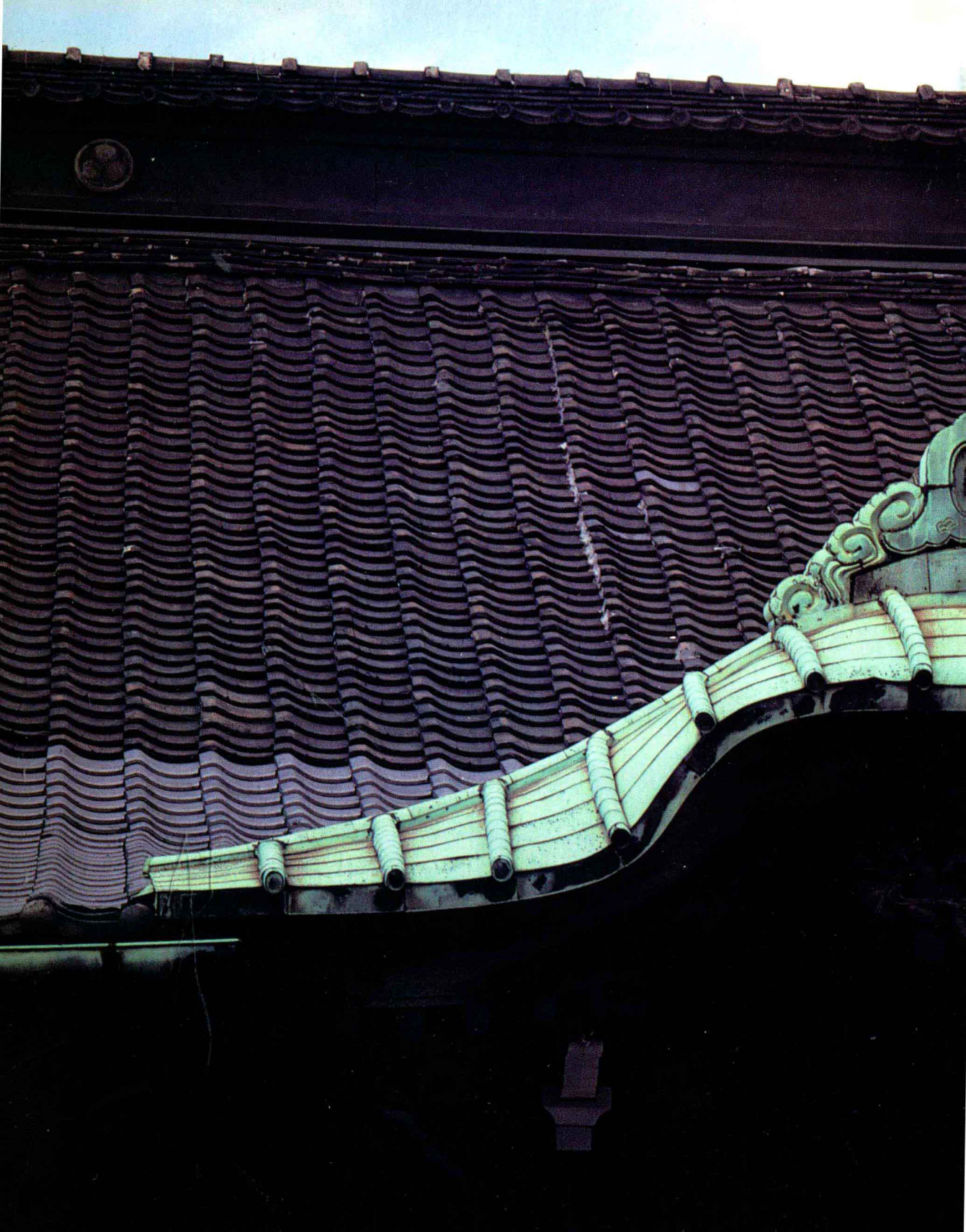


のどかな田園からも、英雄は生まれる。

二百数十年にわたる泰平に、忘れ去られた“土道”は武州多摩に残っていた。士の町江戸に近い多摩の青年らは、農民であるからこそ純粹で朴はつくとつな“土道”を生きたのである。土方、近藤らは、この地で生まれ育った。







まだ、名もない浪士のひとりだった。

文久3年(1863)2月4日、浪士隊は小石川伝通院に集合した。総勢約300人。隊の中には、29歳の土方歳三、近藤勇、沖田総司ら試衛館グループの面々も顔を揃えていた。一行は、2月8日に江戸を発ち、京都をめざした。



はじめのつまづきが、新選組を生んだ。

文久3年(1863)2月23日、京都着。だが、3月3日には、幕府は浪士の帰還命令を下す。浪士隊解散。しかし、試衛館グループと芹沢鴨せりざわがし一党は残留を決意していた。新選組の誕生である。





時代は刻々と動いていた。

当時の京都は、幕末日本の震源地だった。開国が攘夷か。志士たちが街のあちこちに、時代変革の狼火のろしを上げていた。そんな中で、京都御所・蛤御門はまぐりごもんの変で功を上げた新選組は、市中見廻組みまわりとして地歩を固めていく。







二人の絆^{きずな}は、ここで断ち切られた。

鳥羽・伏見^{とばふしみ}の戦いで幕軍は惨敗し、將軍・慶喜^{よしのぶ}は江戸に逃げ戻る。新選組も後を追うように江戸へ帰り、甲州から下総へ、苦しい戦いにのめり込んでいく。そして、下総流山^{めいりゅう}で土方は、盟友の近藤を失った。





もはや、後ろ盾になるものは何もない。

ひとりになった土方は、戦い続けなければならなかった。宇都宮、日光から会津へ。会津藩降伏によって仙台へ。かれらの生きる場所は、もう本州にはないのかもしれない。歳三34歳。新選組隊士も、ひとりふたりと減っていく。



ひとりだけ、夢を見ない男がいた。

明治元年(1867)10月、榎本武揚^{えのしもとたけあき}、大島圭介^{おおとりけいすけ}らとともに歳三^{とせぞう}は蝦夷・鷲ノ木^{わしのき}に上陸する。榎本らは、この新天地に、蝦夷共和国の夢を実現しようとしていた。五稜郭^{ごりょうかく}こそ、その夢の中核をなす、かれらの“城”だった。

